

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年9月12日

新型コロナ罹患から1年後の職場復帰状況：喫煙者ほどロングコロナの影響
が大きい。 イタリアの論文より

【松崎雑感】

昨日は、タバコを吸う人々はロングコロナになりやすいというデータを紹介しました。今日は、喫煙者ではコロナ感染後、体調不良で、元通りの職場復帰が困難となる可能性がある（オッズ比4倍の違い）というデータを紹介します。

ロングコロナとなる人々もそれほど多くはないのですが、その方の人生にとって、喫煙が、体調不良、職場復帰困難となるリスクが相当高くなるというデータを見て、今後も喫煙を続けるかどうかを熟慮していただければと思います。

新型コロナ罹患から1年後の職場復帰状況：喫煙者ほどロングコロナの影響が大きい。 イタリア

Buonsenso D, Gualano MR, Rossi MF, et al. **Post-Acute COVID-19 Sequelae in a Working Population at One Year Follow-Up: A Wide Range of Impacts from an Italian Sample.** *Int J Environ Res Public Health*. 2022;19(17):11093. Published 2022 Sep 5. doi:10.3390/ijerph191711093

ロングコロナに関連する職場復帰状況を調査したデータは極めて少ない。

新型コロナ感染と診断された労働者の1年後の体調を調査し、職場復帰状況に影響する因子を検討した。

対象は155名の労働者。質問票調査。平均年齢46.48才。

男性49.7%。喫煙者21.3%。

コロナ感染から1年後の時点で体調が十分に回復していない者は19.0%。
。

就業状態が変化（悪化）した者は13.7%。

感染前、対象者の98.7%がフルタイム雇用、1.3%がパートタイム雇用だった。感染から1年後、85.6%が同じ雇用形態継続、13.7%（21名）が雇用形態変更：内訳：休職中7名、体調不良のため退職3名、就業時間短縮3名、解雇1名。その他の理由・回答拒否14名。

雇用形態変化（休職、退職、時短）は喫煙者の38.1%、非喫煙者の18.2%に発生した（オッズ比4.1）。すなわち、就業状態が変化（多くが休職、退職、時短）した者は喫煙者に有意に多かった（オッズ比4.106、1.406-11.990、 $p = 0.01$ ）。

46才以上の人々では入院期間が長く、体調不良率も有意に高かった。女性では不安障害が有意に高かった。

今回の調査では、喫煙者がロングコロナにより十分な職場復帰ができないことが明らかになった。

さらに、女性の労働者ではメンタルケアをさらに重視することが必要である。